

# 世界脳週間 2025 報告書

将来を担う若者を主な対象として  
脳科学の重要性を啓発する日本における  
活動の報告



主催	NPO法人脳の世紀推進会議
共催	国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター 公益財団法人ブレインサイエンス振興財団
協力	日本神経科学学会 日本神経化学会 日本神経回路学会 日本脳科学関連学会連合
支援	脳の世紀推進会議賛助会員 (株)成茂科学器械研究所 / (株)日立製作所 中央研究所 エーザイ(株)メディスン開発センター / (株)NTTデータ経営研究所 サントリーウェルネス(株)生命科学研究所 / ショーシンEM(株) 日清食品ホールディングス(株)

# 世界脳週間 日本イベント

THE WORLD BRAIN AWARENESS WEEK in JAPAN

## 世界脳週間とは

「世界脳週間」とは、脳の健康や脳科学への関心を一般に広めることを目的として1996年に米国から始まり、現在では世界的規模で行われるようになった国際的啓発活動です。

日本では2000年から「NPO法人脳の世紀推進会議」が主体となって様々なイベントを開催しています。特定の週ではなく、1年を通して全国各地で順次開催され、未来を担う学生などを対象としたセミナーや体験イベントが多いのが日本イベントの特徴です。

## 参画グループ

(2025年度)

詳細は「NPO法人脳の世紀推進会議」HP  
をご覧ください

- 1 北海道大学(札幌市)
- 2 東北大学(仙台市)
- 3 新潟大学(新潟市)
- 4 理化学研究所(和光市)
- 5 東京科学大学(文京区)
- 6 東京都医学総合研究所(世田谷区)
- 7 国立精神神経医療研究センター(小平市)
- 8 玉川大学(町田市)
- 9 山梨大学(中央市)
- 10 生理学研究所(岡崎市)
- 11 名古屋市立大学(名古屋市)
- 12 京都神経科学グループ(京都市)
- 13 大阪大学(吹田市)
- 14 奈良県立医科大学(奈良市)
- 15 広島大学(広島市)



## 日本イベント

主催	NPO法人脳の世紀推進会議
共催	国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター 公益財団法人ブレインサイエンス振興財団
協力	日本神経科学学会 日本神経化学会 日本神経回路学会 日本脳科学関連学会連合





# 世界脳週間 2025

## Contents

世界脳週間 2025 企画の経緯及び開催趣旨	P 2
我が国における実施期間及び全国開催イベント一覧	P 3

### 各地でのイベント報告

01 世界脳週間 2025 北海道大学 「Academic Fantasista 事業」	P 6
02 世界脳週間 2025 東北大学 サイエンスカフェ	P 8
03 世界脳週間 2025 新潟大学脳研究所 「見てみようヒトの脳と心」	P10
04 世界脳週間 2025 理化学研究所 夏休み高校生理科教室	P12
05 世界脳週間 2025 東京科学大学講演会	P14
06 世界脳週間 2025 桜蔭高等学校 特別授業特別事業	P16
07 世界脳週間 2025 国立精神・神経医療研究センターイベント	P18
08 世界脳週間 2025 玉川大学 中高生脳科学教室	P20
09 世界脳週間 2025 山梨大学 山梨県下高校生への公開授業	P22
10 世界脳週間 2025 せいりけん市民講座	P24
11 世界脳週間 2025 名古屋市立大学 オープンカレッジ	P26
12 世界脳週間 2025 京都講演会	P28
13 世界脳週間 2025 大阪大学 Neuroscience Meets Technology	P30
14 世界脳週間 2025 奈良女子大学 SSH サイエンス先端講座Ⅱ	P32
15 世界脳週間 2025 広島大学医学部 公開講座	P34
結び「世界脳週間 2025 を終えて」	P36

## 世界脳週間 2025 企画の経緯及び開催趣旨

脳科学は今世紀最重要研究領域の一つであり、また認知症を初めとする精神・神経疾患の新たな診断・治療法の開発、さらにはロボットや人工知能など社会に強いインパクトを与える科学技術イノベーションのためにも極めて重要なサイエンスです。

この現代社会における脳科学の重要性は国際的にも広く認識され、将来を担う若者を主な対象として公開講演会、病院や研究所の公開、体験学習などの行事を展開する「脳週間」イベントが 1992 年に米国で開始されました。それに呼応して、1997 年から欧州においても「脳週間」イベントが始まり、2000 年からは国際脳研究機構やユネスコの後援を受け、「世界脳週間」と銘打ったグローバルな行事になりました。

わが国もこの「世界脳週間」活動の意義に賛同し、NPO 法人「脳の世紀推進会議」が主体となり、知識欲旺盛な高校生を主な対象として 2000 年より参画しています。毎年、わが国の脳研究の中心的研究センターである国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センターを含め全国 9～18 か所で講演会、研究室の公開、体験学習会などのイベントを行ってきました。2000 年からコロナ禍が遷延し一部では中止せざるをえない事態となりましたが、約半数ではオンラインで開催され、高校生を含め多くの参加を得、活発な質疑応答も行うことができました。2021 年度からは現地開催が復活しはじめ、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行した 2023 年度には 9 か所すべてが現地開催となり、その後 2024 年度は 12 か所、2025 年度は日本全国 15 か所で開催されました。

本報告書はこの全国 15 か所における世界脳週間 2025 イベントの開催報告を纏めたものです。

## 我が国における実施期間及び全国開催イベント一覧

### 【実施期間】

世界脳週間は米国では2025年は3月10日(月)から14日(金)までとし、この週に種々行事を展開したが、我が国では主な対象である高校生の都合に合わせて実施期間を柔軟に設定している。

### 【開催イベント一覧（開催日順）】

#### 01 世界脳週間 2025 北海道大学 「Academic Fantasista 事業」

開催日：2025年9月17日(水) 10:30~12:10、11月5日(水) 13:05~15:45

会場：9/17 市立札幌開成中等教育学校（札幌市東区北22条東21丁目1-1）  
11/5 市立札幌新川高等学校（札幌市北区新川5条14丁目1-1）

主催：北海道大学脳科学研究教育センター

#### 02 世界脳週間 2025 東北大学 サイエンスカフェ

開催日：2026年3月20日(金・祝) 13:30~16:30

会場：東北大学 片平キャンパス 生命科学プロジェクト総合研究棟  
(仙台市青葉区片平2-1-1)

主催：東北大学大学院生命科学研究科

#### 03 世界脳週間 2025 新潟大学脳研究所 「見てみようヒトの脳と心」

開催日：2026年3月26日(木) 10:30~17:00

会場：新潟大学脳研究所 旭町総合研究実験棟 中田記念ホール 他  
(新潟市中央区旭町通1-757)

主催：新潟大学脳研究所

#### 04 世界脳週間 2025 理化学研究所 夏休み高校生理科教室

開催日：2025年8月8日(金) 13:00~16:00

会場：理化学研究所 脳神経科学研究センター（和光市広沢2-1）

主催：理化学研究所 脳神経科学研究センター

#### 05 世界脳週間 2025 東京科学大学講演会

開催日：2026年1月24日(土) 16:00~18:30

会場：オンライン開催 (Zoom)

主催：東京科学大学 脳統合機能研究センター／お茶の水ニューロサイエンス協会

**06 世界脳週間 2025 桜蔭高等学校 特別授業特別事業**

開催日：2025年10月27日(月) 8:30~10:20

会場：桜蔭高等学校 (文京区本郷 1-5-25)

主催：公益財団法人東京都医学総合研究所

**07 世界脳週間 2025 国立精神・神経医療研究センターイベント**

開催日：2025年8月2日(土) 13:00~17:30

会場：国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟 ユニバーサルホール  
(小平市小川東町 4-1-1)

主催：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

**08 世界脳週間 2025 玉川大学 中高生脳科学教室**

開催日：2025年11月30日(日) 9:00~13:00

会場：玉川大学 Human Brain Science Hall (町田市玉川学園 6-1-1)  
《ハイブリッド開催》

主催：玉川大学 脳科学研究所

**09 世界脳週間 2025 山梨大学 山梨県下高校生への公開授業**

開催日：2025年7月31日(木) 9:00~12:00、13:10~16:20

会場：山梨大学医学部 (中央市下河東 1110 番地)

主催：山梨大学

**10 世界脳週間 2025 せいりけん市民講座**

開催日：2025年8月2日(土) 13:00~15:00

会場：岡崎コンファレンスセンター 大隅ホール (岡崎市明大寺町字伝馬 8-1)

主催：生理学研究所・岡崎市

**11 世界脳週間 2025 名古屋市立大学 オープンカレッジ「脳のふしぎ×こころの健康」**

開催日：2025年10月31日(金)~12月19日(金) (全8回)

会場：名古屋市立大学 (名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1)

主催：名古屋市立大学医学研究科

**12 世界脳週間 2025 京都講演会**

開催日：2025年7月19日(土) 14:00~16:30

会場：東山高等学校 (京都市左京区永観堂 51)

主催：京都神経科学グループ

**13 世界脳週間 2025 大阪大学 Neuroscience Meets Technology**

開催日：2025年9月23日(火・祝) 13:00~18:00

会場：大阪大学 最先端医療イノベーションセンター (吹田市山田丘 2-2)

主催：大阪大学 国際医工情報センター

**14 世界脳週間 2025 奈良女子大学附属中等教育学校 SSH サイエンス先端講座Ⅱ**

開催日：2026年3月14日(土) 13:30~16:00

会場：奈良女子大学附属中等教育学校 多目的ホール (奈良市東紀寺町 1-60-1)

主催：奈良女子大学附属中等教育学校

**15 世界脳週間 2025 広島大学医学部 公開講座**

「先端医療は今 -広島から世界へ 2025」脳とこころの科学はおもしろい!

開催日：2025年7月26日(土) 13:00~16:00

会場：広島大学医学部 第5講義室 (広島市南区霞 1-2-3)

主催：広島大学 神経科学研究会

# 01 世界脳週間 2025

## 北海道大学 「Academic Fantasista 事業」

### 【 開催イベント情報 】

日 時 2025年9月17日(水) 10:30~12:10、11月5日(水) 13:05~15:45  
会 場 9/17 市立札幌開成中等教育学校 (札幌市東区北22条東21丁目1-1)  
11/5 市立札幌新川高等学校 (札幌市北区新川5条14丁目1-1)  
主 催 北海道大学脳科学研究教育センター  
代 表 者 阿部 匡樹 (北海道大学大学院教育学研究院)  
後援・協賛 北海道新聞社

### 【 開催趣旨 】

北海道大学における脳科学研究の最前線を高校生たちに伝えるため、北海道大学「Academic Fantasista 事業」のプラットフォームを利用し、脳科学研究教育センター教員が、上記日時に、上記の高校において出張講義を行った。

### 【 プログラム 】

9/17 市立札幌開成中等教育学校 : 10:30~11:20 講演、11:20~12:10 アドバイスタイム  
11/5 市立札幌新川高等学校 : 13:05~14:05 1講目、14:45~15:45 2講目

### 【 開催周知方法 】

当該校内で在校生に対して周知を行い、希望調査・抽選を経て受講者が決定された。

### 【 参加者数 】

9/17 市立札幌開成中等教育学校 : 39名(3-4年、中高一貫校のため中3、高1に相当)  
11/5 市立札幌新川高等学校 : 49名(1-2年、1講目21名、2講目28名)

### 【 イベントの概要 】

開成中等教育学校では課題研究スタートアップセミナーの一環として行われ、前半は講演、後半は講演についての質疑応答及び課題研究についてのアドバイスをを行った。新川高校では上級学校セミナーの一環として行われ、1・2講目それぞれにおいて講演及び質疑応答を行った。両校ともにトピックは「ヒトの認知や行動における他者の影響」であり、それについての最新の脳科学の知見や代表者の研究内容を説明した。



## 02 世界脳週間 2025 東北大学 サイエンスカフェ

### 【 開催イベント情報 】

日 時 2026年3月20日(金・祝) 13:30~16:30  
会 場 東北大学 片平キャンパス 生命科学プロジェクト総合研究棟  
(仙台市青葉区片平 2-1-1)  
主 催 東北大学大学院生命科学研究科  
代 表 者 竹内 秀明 (東北大学大学院生命科学研究科 脳生命統御科学専攻  
神経ネットワーク講座)

### 【 開催趣旨 】

世界脳週間にあわせて、神経科学・生命科学の研究内容を一般の中高生および保護者に分かりやすく紹介し、脳科学への関心を高めることを目的として開催した。春休み期間に実施することで、進路選択を考える契機の提供も意図した。

### 【 プログラム 】

- ・講演 : 「人間と動物が会話できる日は来るのか？  
～コトリの「ことば」を介したコミュニケーションの神経機構～」  
安部 健太郎 教授 (東北大学大学院生命科学研究科 脳生命統御科学専攻・脳機能  
発達分野長)
- ・研究室ツアー
- ・進路相談・質問コーナー

### 【 開催周知方法 】

ウェブサイト、メール配信、学校関係者への案内

### 【 参加者数 】

約 50 名

### 【 イベントの概要 】

本イベントは多様な動物を対象とした神経科学研究の理解促進を目的に開催した。安部健太郎教授によるコトリのコミュニケーション研究に関する講演に加え、研究室ツアーを実施した。

- ・大原研究室 : 海馬と大脳新皮質における記憶・学習の神経基盤
- ・松井研究室 : 光操作やイメージングによる神経回路機能の解析

- ・竹内研究室：メダカを用いた社会行動と視覚認知の研究
- ・谷本・黄研究室：ハエ・クラゲを用いた神経系の進化と機能解析

参加者は研究室を巡り、実験紹介や顕微鏡観察を通じて研究の最前線に触れ、研究者・学生との対話を通じて理解を深めるとともに進路を考える契機を得た。

### 【 参加者の反応 】

講義・研究室ツアーともに非常に高い満足度を示し、評価はほぼ最高点に集中した。「研究室見学による新たな発見」「顕微鏡観察や脳の実験体験」が特に好評であった。また「説明が丁寧で分かりやすい」「進路の参考になった」「子どもが強い興味を持った」といった声が多く寄せられた。

一方で、集合場所やスケジュールの不一致、待機時間の活用、案内表記の明確化に関する改善要望も見られた。

### 【 開催者の総括 】

講義と研究室ツアーを組み合わせた構成により、研究理解と進路意識の双方に高い教育効果が得られた。特に学生を含めた丁寧な説明と双方向的な対応が満足度向上に寄与した。一方で運営上の改善点も明らかとなり、今後の改善につなげたい。本企画は次世代育成の観点からも意義の大きい取り組みであった。

## 03 世界脳週間 2025

### 新潟大学脳研究所 「見てみようヒトの脳と心」

#### 【開催イベント情報】

日時	2026年3月26日(木) 10:30~17:00
会場	新潟大学脳研究所 旭町総合研究実験棟 中田記念ホール 他 (新潟市中央区旭町通 1-757)
主催	新潟大学脳研究所
代表者	松井 秀彰 (新潟大学脳研究所 所長)
後援	新潟県教育委員会

#### 【開催趣旨】

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に訴えることを目的とした世界的なキャンペーンです。日本においても、脳の最先端研究を行っている 10 以上の研究機関が参加し、将来の科学研究を担う学生を対象として、最先端の脳研究をわかりやすく紹介するとともに、脳と心の科学への興味を喚起することを目的に、研究室・実験の公開および講演を実施しています。

新潟大学脳研究所においても、この趣旨に沿い、3月26日(木)に「見てみようヒトの脳と心」と題した研究所公開および講演を企画し、生徒・学生の皆さんに積極的にご参加いただける内容としています。主な対象が高校生のため、高校の春休みに実施しています。

#### 【プログラム】

- 脳研究所概要説明・講演 13:30~15:00
- 13:30~ 脳研究所長挨拶 松井 秀彰 所長 (新潟大学脳研究所)
- 13:40~ 講演「ドーパミン:やる気・快感・依存をつくる脳の化学物質」  
笹岡 俊邦 教授 (新潟大学脳研究所 動物資源開発研究分野)
- 14:10~ 講演「頭蓋骨を透明にして、生きた脳を覗いてみよう」  
田井中 一貴 教授 (新潟大学脳研究所 システム脳病態学分野)
- 14:40~ 質疑応答 佐原 成彦 特任准教授 (新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター)
- 研究室見学 午前見学コース 10:30~12:00、午後見学コース 15:30~17:00  
※午前・午後の内容は同じ

<9コース>

- 1 脳の中の宇宙を覗いてみよう (午後のみ)
- 2 脳の神経回路を可視化する (午後のみ)
- 3 ゲノムの進化から脳の病気を知る (午後のみ)

- 4 脳腫瘍に対する近赤外光免疫療法（午後のみ）
- 5 病から始まる脳研究を見てみよう（午後のみ）
- 6 脳を視る最先端技術（午前、午後）
- 7 遺伝子で迫る認知症の謎（午前のみ）
- 8 脳の働きを解明するマウスの魅力（午前、午後）
- 9 脳の病気の起源（午後のみ）

## 【開催周知方法】

- ① 新潟県内高等学校・中等教育学校に案内を送付
- ② 脳研究所ホームページに開催情報を掲載
- ③ SNS(脳研究所公式X)に投稿
- ④ 新潟大学ホームページに開催情報を掲載

## 【参加者数】

60名（高校生56名、大学生4名）



## 【イベントの概要】

所長挨拶の後、2名の研究者から頭蓋骨シースルー法など、最新の脳研究に関する講演を行いました。また参加者は午前と午後に用意された見学コースから希望のコースを選択し、少人数に分かれて希望する研究室で研究内容説明や実験体験など、多彩な脳研究の現場を体験しました。

## 【参加者の反応】

参加者への実施後アンケートより、参加の動機として、講演や研究室見学への関心に加え、将来の進路選択や研究職志向、医学・脳科学分野への興味、探究活動への活用などが挙げられました。中には前年の参加をきっかけに再参加した生徒もあり、本イベントが参加者にとって継続的な学びと魅力を提供していることがうかがえました。

## 【開催者の総括】

全国から高校生・大学生が参加し、事前質問も多数寄せられるなど、全体として高い学習意欲がうかがえました。研究室ごとの講義や実験実技では、専門的な内容に対しても積極的に質問する姿が見られ、参加者同士や研究者との対話を通じた主体的な学びの場となりました。本イベントは、大学における研究活動の実際を具体的に伝える機会として有意義であり、今後の進路選択や学習意識の向上に寄与する構成であったと考えられます。



# 04 世界脳週間 2025

## 理化学研究所 夏休み高校生理科教室

### 【開催イベント情報】

日時 2025年8月8日(金) 13:00~16:00  
会場 理化学研究所 脳神経科学研究センター (和光市広沢 2-1)  
主催 理化学研究所 脳神経科学研究センター  
代表者 岡部 繁男 (理化学研究所 脳神経科学研究センター センター長)

### 【開催趣旨】

高等学校の既存行事とできるだけ重ならない夏休み期間中を選び例年8月1または2週目に開催している。

### 【プログラム】

13:00~13:10 開会の挨拶  
岡部 繁男 センター長 (理化学研究所 脳神経科学研究センター)

13:15~14:15 講演「脳の中を“見る”科学  
～ゼブラフィッシュが解き明かす感覚と行動のしくみ～」  
久保 郁 チームディレクター  
(理化学研究所 脳神経科学研究センター 知覚運動統合機構研究チーム)

14:30~15:30 研究室見学  
15:30~16:00 展示室(Brain Box)見学、アンケート回答

### 【開催周知方法】

- ① 理研ウェブサイト イベントページ
- ② 脳神経科学研究センターウェブサイト イベントページ
- ③ CBS X (旧 Twitter)
- ④ CBS Instagram
- ⑤ CBS Facebook
- ⑥ 夏休み高校生理科教室ポスター (近隣のSSH等に郵送)

### 【参加者数】

中学生 1名  
高校生 36名 合計 37名



## 【 イベントの概要 】

「脳の中を“見る”科学 ～ゼブラフィッシュが解き明かす感覚と行動のしくみ～」と題した全体講演の後、少人数のグループに分かれて研究室見学を行い、見学後アンケート記入をし、展示施設 Brain Box の見学をした。

## 【 参加者の反応 】

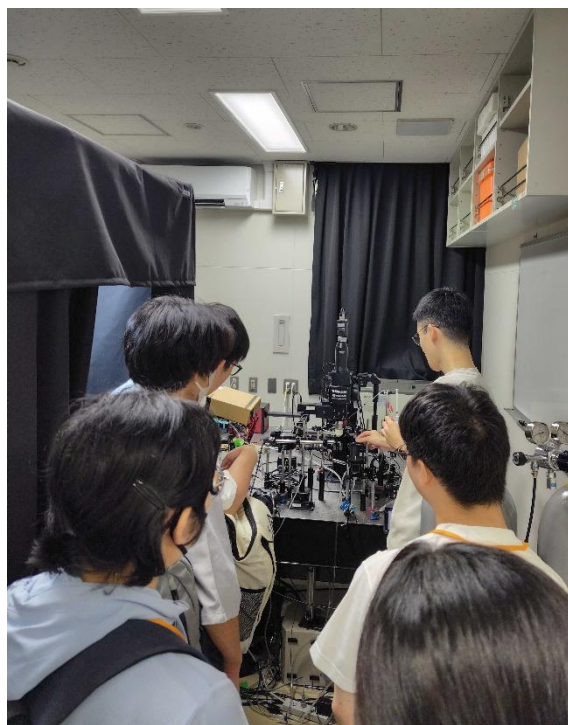
・「脳科学」というものの解像度が低かったのですが、「GFP」「光遺伝学」など今回初めて触れる知識が多く、少し「どのように脳を調べるのか」ということを理解できたので、自分の興味のある分野に繋げていこうと思います。

・初めにセンター長からあった脳の大きな分野についてのお話が分かりやすかった。また、久保さんのお話で光学イメージングや光遺伝学などの基本のお話から、研究のお話まで説明して下さって、とても興味を持った。

・様々な分野の人々が参加し、多くの視点を結び付けて研究する点や器具を自作する点など、自分が想像したより自由度が高く、研究者にとって大切な問題提起と解決にいたるまでの思考の質を高められそうな点が印象に残った。

## 【 開催者の総括 】

センター長による開会の挨拶の後、久保チームディレクターによる講義が続きました。脳が透明な魚類ゼブラフィッシュを使った、神経活動のイメージング実験やそこから分かってきた情報処理の仕組みについてのお話を、参加者は目を輝かせて聞いていました。その後グループに分かれ、ラボ見学では研究者へ活発に質問したり模擬実験を間近に見たり、リアルな研究現場を楽しんでいただけたのではないかと思います。



## 05 世界脳週間 2025 東京科学大学講演会

### 【 開催イベント情報 】

日 時 2026 年 1 月 24 日(土) 16:00~18:30  
会 場 オンライン開催 (Zoom)  
主 催 東京科学大学 脳統合機能研究センター／  
お茶の水ニューロサイエンス協会  
代 表 者 高橋 英彦 (東京科学大学 脳統合機能研究センター センター長／  
東京科学大学大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野)

### 【 開催趣旨 】

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に呼びかける世界的規模のキャンペーンです。我が国でも、全国の大学・研究機関でイベントが開催されます。東京科学大学ではこの趣旨に沿って、高校生を対象に、本学の教授による講義を企画いたしました。2026.1.24 開催です。

### 【 プログラム 】

16:00~16:05 開会挨拶  
高橋 英彦 教授 (東京科学大学 脳統合機能研究センター センター長／  
東京科学大学大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野)

16:05~17:00 講演1  
「好きとやりがい在工作上: 稀少な神経難病に挑む」  
三澤 園子 教授 (東京科学大学大学院医歯学総合研究科 脳神経病態学分野  
／東京科学大学病院 脳神経内科)

17:00~17:55 講演2  
「強い心はどう作られる? ストレスレジリエンスの脳科学」  
内田 周作 教授 (東京科学大学総合研究院 難治疾患研究所  
統合ストレス医科学分野)

17:55~18:25 全体討論

18:25~18:30 閉会挨拶  
味岡 逸樹 教授 (東京科学大学 脳統合機能研究センター)

### 【 開催周知方法 】

- ・東京科学大学の HP と Facebook で案内
- ・東京科学大学の説明会に参加された高校の先生にメールで案内

## 【参加者数】

99名

## 【イベントの概要】

本イベントは、世界脳週間の一環として2026年1月24日にオンライン（Zoom）で開催し、高校生を対象として実施した。神経難病に挑む臨床研究と、ストレスレジリエンスに関する基礎研究の2講演を通じて、脳科学の多様性と社会的意義を紹介した。講演後には全体討論を行い、研究と進路に関する理解を深める機会を提供した。

## 【参加者の反応】

アンケートでは「とてもよかった」が大多数を占め、高い満足度が確認された。臨床と基礎の両分野の講演により、医療と研究の多様な関わり方への理解が深まったとの声が多く見られた。特にキャリア形成や心の科学といった身近なテーマが関心を集め、進路選択や学習意欲の向上につながったことが示唆された。

## 【開催者の総括】

本イベントは、高校生に対して脳科学の魅力と社会的意義を伝えるとともに、臨床と基礎研究の双方の視点を提示できた点で意義深いものであった。オンライン形式により幅広い参加を可能とし、高大連携の取り組みとしても有効に機能した。今後は、参加者のさらなる拡大と理解促進を目指し、内容や形式の工夫を重ねながら継続的なアウトリーチ活動を推進していく。

Institute of SCIENCE TOKYO 国立大学法人 東京科学大学

# 世界脳週間 2025

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に呼びかける世界的規模のキャンペーンです。我が国でも、全国の大学・研究機関でイベントが開催されます。東京科学大学ではこの趣旨に沿って、高校生を対象に、本学の教授による講演を企画いたしました。脳科学研究の将来の担い手となる皆さまに、ぜひ積極的に参加していただければ幸いです。

代表：脳統合機能研究センターセンター長 / 精神行動脳科学分野 教授 高橋 英彦

16:00-16:05 開会挨拶：  
高橋 英彦 教授

16:05-17:00 講演1 「好きとやりがいを仕事に：稀少な神経難病に挑む」  
三津 園子 教授 (大学院医学総合研究科 脳神経衛生学分野 / 大学病院 脳神経内科)

17:00-17:55 講演2 「強い心はどう作られる？ストレスレジリエンスの脳科学」  
内田 周作 教授 (総合研究科 難治疾患研究所 統合ストレス医学科学分野)

17:55-18:25 全体討論

18:25-18:30 閉会挨拶：味岡 逸樹 教授

参加料無料  
対象：高校生  
定員：100名  
参加登録はこちらから

2026.1.24(土)

16:00-18:30 オンライン (Zoom) 開催 <https://forms.gle/YirR6T9znEAGreRH6>  
[主催] 東京科学大学 国際理工共創研究院 脳統合機能研究センター  
お茶の水ニューロサイエンス協会

お申込み方法  
右記QRコードから「氏名・学校名・学年・連絡先メールアドレス」を記載して送信してください(先着順)。  
なお、学校単位での応募も受け付けております。  
担当者連絡先：脳統合機能研究センター マテリアル神経科学分野 教授 味岡逸樹  
E-mail: Brainweek2019.cbir@gmail.com

## 06 世界脳週間 2025

### 桜蔭高等学校 特別授業特別事業

#### 【 開催イベント情報 】

日 時 2025年10月27日(月) 8:30~10:20  
会 場 桜蔭高等学校 (文京区本郷 1-5-25)  
主 催 公益財団法人東京都医学総合研究所  
代 表 者 成田 友代 (東京都医学総合研究所 理事長)

#### 【 開催趣旨 】

高校の授業の一環として、脳をテーマとした講演会を毎年開催しています。  
開催時期については高校と相談して決めています。

#### 【 プログラム 】

8:30~9:20

「「ヒト」の「こころ」を目指して」

大岡 静衣 主席研究員 (東京都医学総合研究所 依存性物質プロジェクト)

9:30~10:20

「脳はどのようにできるのか? ~脳形成に重要なニューロンの機能発見ものがたり~」

丸山 千秋 副参事研究員 (東京都医学総合研究所 脳神経回路形成プロジェクトリーダー)

#### 【 開催周知方法 】

授業の一環として開催しているため、外部向けの広報はしていません。

#### 【 参加者数 】

高校3年生 36名

#### 【 イベントの概要 】

高校3年生を対象に理科の特別授業という位置づけで実施し、2名の当研究所研究員より神経ウイルス学や脳研究史等について講義を行いました。

### **【 参加者の反応 】**

錯視などの身近なテーマから最新の研究まで多様な内容を紹介させていただきました。また、講演者兩名から研究者になるまでのキャリア等についてもご説明いただき、大学進学後の進路についても具体的にイメージできる内容となり参加者から非常に高い関心を持って聞いていただくことができ、多数の質問をいただきました。

### **【 開催者の総括 】**

専門的な内容も含まれた講義でしたが、学生の方々が熱心に興味深く聞かれている姿が印象的でした。普段接する機会のない研究者による講義ということで、このような機会に専門性の高い研究内容に触れることで医学・科学への関心を深めていただけたなら幸いです。

# 07 世界脳週間 2025

## 国立精神・神経医療研究センターイベント

### 【開催イベント情報】

日時 2025年8月2日(土) 13:00～17:30  
会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟 ユニバーサルホール  
(小平市小川東町 4-1-1)  
主催 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター  
代表者 中込 和幸 (国立精神・神経医療研究センター 理事長)

### 【開催趣旨】

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に訴える世界的キャンペーンで、我が国もこの意義に賛同し、2000年より「脳の世紀推進会議」が主体となって高校生を対象として、最先端の脳科学研究を紹介するイベントを開催している。開催日時は、高校生が参加しやすい夏休み期間で、関東近郊の他機関が開催する関連行事との重複がない8月2日(土)とした。

### 【プログラム】

- 13:00～13:10 開会の挨拶 岩坪 威 所長 (神経研究所)  
13:10～14:10 講演会  
「動物の行動を読み解く機械学習技術」  
三村 喬生 先生 (疾病研究第三部)  
「子どもたちと「難病」に立ち向かう ～脳神経小児科医の仕事と希望の科学～」  
本橋 裕子 先生 (国立精神・神経医療研究センター病院 脳神経小児科)  
14:10～14:20 休憩  
14:20～14:25 閉会の挨拶／ラボ体験ツアーの説明 小山 隆太 部長 (疾病研究第二部)  
14:25～15:30 ラボツアー (3コースに分かれて見学)  
《 ラボツアースケジュール詳細 》  
14:25～14:30 グループ毎集合／アンケート用紙配布  
14:30～15:30 ラボ体験ツアー・質疑応答(ツアー①:14:30～15:00、 ツアー②:15:00～15:30)  
15:30～16:00 ユニバーサルホールにて、アンケート回収  
16:00～ アンケート回収後、解散  
《 ラボツアー担当部・内容 》  
赤ツアー ① 疾病研究第五部 iPS細胞技術を活用した神経・筋疾患の研究  
② 疾病研究第三部 動物の脳と心に迫る計測技術  
緑ツアー ① 疾病研究第四部 アルツハイマー病を観る、創る、治す  
② 神経薬理研究部 脳は若返る! ?  
青ツアー ① 遺伝子疾患治療研究部 筋ジストロフィーの最前線:遺伝子治療とモデル動物  
② 病態生化学研究部 遺伝子ビッグデータで脳を観る、新しい脳科学の世界



## 【 開催周知方法 】

NCNP ホームページ、Twitter、脳の世紀推進会議 ホームページ

首都圏高校・参加実績のある高校・近隣高校へチラシおよび開催案内郵送(69校)1回

## 【 参加者数 】

学生 23 名、引率者 5 名（当日欠席 2 名、ツアー欠席 1 名）

## 【 イベントの概要 】

国立精神・神経医療研究センターは研究所と病院が併設されており、研究者と医師が連携しながら最先端の研究を進めている魅力を伝えることを目的とした。オンサイトで、2名の講演者による最先端の脳科学研究に関する講演後ラボツアーを開催した。ラボツアーでは事前に参加者に希望をとり、3コースに分かれて研究施設を見学した。見学終了後に参加証明書を一人ひとり小山部長より授与しアンケートを回収、無事イベントを終了した。

## 【 参加者の反応 】

イベントに参加した高校生は皆熱心で、質疑応答では笑いがおこるなど会場の雰囲気がとてもよかった。イベント後のアンケートでは、内容に関して大変興味深く、学びの多い内容だったとの声が多く、用紙の記入枠をはみ出して感想を書いてくれる高校生がほとんどであった。

《 アンケート 》

- ・実際の研究を見学して研究者に憧れた。
- ・自分の進路として将来研究者を目指す時、どういう所を目指したらいいか具体的に想像ができてよかった。

## 【 開催者の総括 】

研究所と病院を併設する NCNP の強みを活かし、基礎・臨床の 2 講演とラボ体験ツアーを通じて最新の脳科学と医療の現場を一体的に紹介できた。講演後の質疑は終始活発で、アンケートでも「実際の研究を見学して研究者に憧れた」「進路を具体的に想像できた」との声が多数寄せられ、学びと動機づけの機会となった。運営は円滑で安全面にも配慮し、科学未来館からの参加も得て交流が広がった。本企画は、次世代人材育成と社会への発信という趣旨に合致した成果を上げた。次回は広報とツアー動線の最適化をさらに進め、参加者の探究心に一層応える場としたい。



# 08 世界脳週間 2025

## 玉川大学 中高生脳科学教室

### 【 開催イベント情報 】

日 時 2025年11月30日(日) 9:00~13:00  
会 場 玉川大学 Human Brain Science Hall (町田市玉川学園 6-1-1)  
《 ハイブリッド開催 》  
主 催 玉川大学 脳科学研究所  
代 表 者 松元 健二 (玉川大学 脳科学研究所 所長)

### 【 開催趣旨 】

都内で行われる脳の世紀イベントが比較的少なく、教員の多数が対応可能な晩秋を例年を踏襲して選定した。

### 【 プログラム 】

9:00~9:05 脳科学研究所長挨拶

9:05~10:00 全体講演

「脳の非線形性と心の病:シナプスのほんの小さな変化が心を揺さぶる理由」

林(高木) 朗子 先生 (理化学研究所 脳神経科学研究センター チームディレクター、  
専門は神経科学、精神医学、主な受賞歴 : 日本生物学的精神医学会・  
学術賞(2010)、日本神経科学・奨励賞(2015)など)

10:00~12:30 体験コース (オンライン2テーマ、対面5テーマから選択受講)

A 考えることと考えないこと -脳にある2つの意思決定システム- (オンライン)

B 神経活動から動物の行動を予測する -行動変容生物学入門- (オンライン)

C ヒトの脳の電気活動(脳波)をみてみよう (対面)

D 脳MRI 実験実習 (対面)

E Human-AI interaction -インタラクション技術と設計- (対面)

F 生体電気信号を読み取ってロボットを操作しよう (対面)

G ロボットの「脳」を体験する -VR空間でのロボット操作体験- (対面)

12:30~12:50 各コースの発表および講評

12:50~13:00 アンケートフォーム記入後に解散

### 【 開催周知方法 】

脳の世紀推進会議ホームページ、大学(脳科学研究所を含む)ホームページ、各学校への DM 送付、SNS 等

## 【参加者数】

体験学習まで参加した実数は33名（昨年度は51名：申込者は52名と例年並みだったが、今年はインフルエンザ流行と当日朝の鉄道事故で欠席が多かった）、その他に全体講演のみのオンライン参加者が9名（昨年は21名）。男女比は概ね男性:女性=2:3で女性が多い。

## 【イベントの概要】

本年の「中高生脳科学教室」では、開会挨拶に続き、林(高木)朗子先生が「脳の非線形性と心の病」と題した講演を行った。講演では脳科学の基礎が美しい写真やご自身のデータをもとに平易に説明された。ニューロンの非線形な振る舞いから、さまざまな心の状態の変化が説明するという点は、高校生には新鮮な視点であったようで、質疑応答でも刺激的な議論が交わされた。その後、参加者は7つの体験コースに分かれてオンラインと対面のどちらかで体験実習を行い、その後各コースの成果発表が行われ、講師陣によるまとめと修了証授与を経て閉会した。

## 【参加者の反応】

参加者からは「非常に楽しかった」「貴重な経験になった」との声が多く寄せられた。自分の脳のMRI像の撮像や、実験や講義を通して脳科学への興味が一層深まっただけでなく、研究者との交流や、専門的な内容をわかりやすく学べたことに感動する意見が目立った。オンラインで地方から参加できたことを喜ぶ強い声もあったが、オンラインでも施設紹介をして欲しいとの意見もあった。次年度の参加を希望する声は多く、進路選択の参考になったという意見もあった。

## 【開催者の総括】

ハイブリッド開催としたことで、地方都市在住の中高生20名弱の熱心な参加に繋がった。主催者としては技術的な苦労もあるが、地方の参加者からも質疑応答で「脳についての形態学的な研究からどのように仕組みや機能をすることができるのか？」などの本質的な質問もあり、首都圏のアカデミアも、地方の高校生が参加できる機会を増やしていくことの重要性を再確認した。次年度以降も、アンケート結果も参考にしながら開催したいと考える。

**中高生脳科学教室 2025**

11/30 9:00~13:00

### アンケートの結果

申込者の学年

学年	割合
高3	9%
中1	5%
中2	9%
中3	18%
高1	27%
高2	32%

・出席者の学年は、中3~高2が多い(特に高校2年生が多い)

### 何回目の参加か？

回数	割合
はじめて	84%
2回目	16%

### 参加満足度 (5段階評価)

質問	平均 (括弧内は前回)
楽しかったか	4.6 (4.54) / 5
意義深さ	4.5 (4.63) / 5
また参加したい	4.7 (4.53) / 5

→ 非常に高い満足度  
→ 前年と、満足度が高い(意義深かった)がやや減り、(また参加したい)がやや増えた

### 男女比

性別	割合 (括弧内前回)
女性	60% (78%)
男性	35% (20%)
その他	5% (2%) (非回答含む)

### 参加の理由・決めて (複数回答)

- 脳科学そのものへの興味
- 興味深い体験コースがあった
- 今後の進路や勉強の参考
- 心理学や人間に興味
- 脳研の施設を見てみたかった
- オンラインでも参加できた
- 研究者と直接対話ができる

### 【自由記述コメントのまとめ(主なもの)】

ポジティブなコメント(多数)

- MRIで自分の脳を見られて印象的だった
- 実験設備や模型が見られて楽しかった
- 研究者の話がわかりやすく興味が深まった
- 普段学校では習わない内容ばかりで刺激的
- 国際的な脳科学・精神医学への関心が高まった
- 脳科学という学問のイメージが具体化した
- Pythonなど研究に使うツールが見られて良かった
- 来年も参加したい

→ 本物の研究者や現場に触れられる点を圧倒的に評価

### 改善や要望

- オンラインのみのコースでは施設が見られず残念
- オンライン参加可能なコースをより増やしてほしい
- 専門用語が難しい部分もあった(高校生でもやや難易度高め)

→ 対策(今後の検討点)

- オンライン用の別途施設紹介動画などを整備する
- 難易度調整または補足資料の拡充などが考えられる

## 09 世界脳週間 2025

### 山梨大学 山梨県下高校生への公開授業

#### 【 開催イベント情報 】

テーマ	新しい脳の仕組みについて ―世界脳週間1― 脳の不思議な世界 ―世界脳週間2―
日時	2025年7月31日(木) 9:00~12:00、13:10~16:20
会場	山梨大学医学部 (中央市下河東 1110 番地)
主催	山梨大学

#### 【 開催趣旨 】

山梨大学では各学部の特徴を活かした公開授業を高校生向けに実施している。医学部では40名以上の教員が基礎から臨床まで最先端の医学を紹介し、授業や体験を通じて医学の魅力を伝えている。本授業では、脳神経科学を専門とする教員が講義を担当し、脳という不思議で魅力的な臓器への関心を喚起するとともに、世界脳週間のイベントとして位置づけることで、脳の世紀推進会議の取り組みを広く知ってもらえる機会とする。開催時期は高校生が参加しやすい夏休みとし、学習意欲を高める機会となることを目指している。

#### 【 プログラム 】

9:00~12:00	第1部「新しい脳の仕組みについて ―世界脳週間1―」 小泉 修一(薬理学)、濱田 駿(生化学第一)
13:10~16:20	第2部「脳の不思議な世界 ―世界脳週間2―」 喜多村 和郎(神経生理学)、宇賀 貴紀(統合生理学)

#### 【 開催周知方法 】

高校へのパンフレット等の配布、ホームページによる周知

#### 【 参加者数 】

第1部 17名、第2部 13名

#### 【 イベントの概要 】

第1部「新しい脳の仕組みについて ―世界脳週間1―」

最近わかってきた新しい脳の役者「グリア細胞」を紹介しながら脳が知覚情報を感じる仕組みとその破綻について紹介する。また、マウスを使った最先端研究を通じて、ヒトの記憶と忘却のメカニズムを紹介する。

## 第2部「脳の不思議な世界 ー世界脳週間2ー」

運動、意識、判断をテーマに、先端技術の紹介を交えながら脳がはたらく仕組みを講義する。また、脳のはたらきを実感できるように、運動学習や判断の課題を体験する。

### 【 参加者の反応 】

痛みの情報伝達にグリア細胞の働きが関係すると知って興味を持った。シナプスの働きを知ることでも自分の頭の中で何が起きているとどんなことが効果的なのか知ることができて面白かった。脳とところは深くつながっているということ学ぶことができた。脳の仕組みを知ることができてとても面白かった。小脳の話が全体として面白かった。実験で小脳がどのようにして働くかを体験できてよかった。

### 【 開催者の総括 】

本学医学部には分子・細胞からシステム・個体に至るまで多様な階層を対象とする脳神経科学研究者が在籍し、それぞれの最新トピックスを高校生にわかりやすく伝えることを目的に本授業を実施してきた。受講をきっかけに脳や医学に関心を抱き入学する学生もおり、教育的効果が確認されている。今後も継続し、高校生に学びの契機を提供していきたい。



## 10 世界脳週間 2025 せいりけん市民講座

### 【 開催イベント情報 】

テーマ	体内時計と冬眠のひみつ
日時	2025年8月2日(土) 13:00~15:00
会場	岡崎コンファレンスセンター 大隅ホール (岡崎市明大寺町字伝馬 8-1)
主催	生理学研究所/岡崎市
代表者	西尾 亜希子 (生理学研究所 研究力強化推進室(広報))
協力	岡崎高校、岡崎東高校

### 【 開催趣旨 】

脳は、人間にとって非常に重要で自分の体の一部であるにも関わらず、普段は気にせず、直接見ることなかなか無いため、脳や生理学について学ぶ機会は多くない。そこで一般の方々に生理学や脳のしくみを身近に感じてもらうため、毎年7~8月頃に、岡崎市保健所や近隣の高校と連携し、市民向け講座を行っている。今年度は、「体内時計と冬眠のひみつ」テーマとした講演を行ったほか、高校生のより積極的な参加を促すため、高校生によるブース展示も開催した。

### 【 プログラム 】

■講演 13:00~14:00

タイトル : 体内時計と冬眠のひみつ

講演者 : 榎木 亮介 准教授 (生理学研究所 バイオフィotonics研究部門)

■ワークショップ開催 14:00~15:00

・岡崎高校・岡崎北高校の生徒さんによるワークショップ

### 【 開催周知方法 】

近隣校へのチラシ配布・市政だより掲載・新聞掲載・HP/SNS 掲載・ポスター掲示

### 【 参加者数 】

170名

### 【 イベントの概要 】

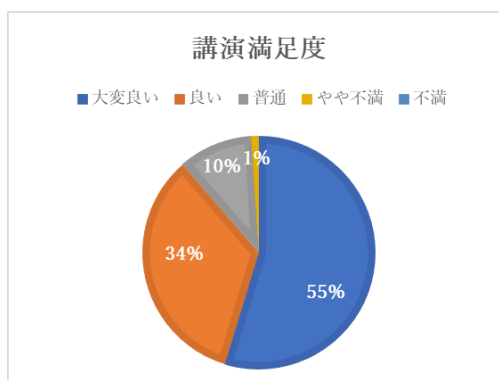
生理学研究所の榎木亮介准教授が「体内時計と冬眠のひみつ」というタイトルで、生き物が、地球という環境に適応するために備えている驚きの能力と、そのしくみを紹介する講演を行った。聴衆は例年、小学生も多いため、画像をふんだんに使用し、分かりやすい説明を心掛けた。また、講演後には、岡崎高校・岡崎北高校生による科学工作ワークショップや岡崎市保健所による展示を行い、参加者の幅広い科学的興味に応えた。

## 【参加者の反応】

参加者のうち、約6割からアンケートの回答を得た。アンケート回答者のうち、参加者の年齢層は、約47%が20歳代以下という若年層であり、次いで多いのが40歳代であった。また満足度に関する回答では、講演については約89%が「大変良い」「良い」と回答しており、「不満」は0%であった。スライドが分かりやすく、講演が大変面白かったというコメントが多数寄せられた。高校生によるワークショップについても91%が「大変良い」「良い」と回答していたことから、大変満足度の高いイベントであったといえる。

## 【開催者の総括】

冬眠や概日リズムという、比較的身近な内容ではあるが、夏でも冬眠する動物がいる、など意外な内容も多く、アンケートも大変好評だったことから、参加者の科学的好奇心は十分に満たされたと考えられる。興味深い事例の紹介だけでなく、脳内メカニズムについても十分な解説があり、若年層に向けた脳科学の啓蒙に役立ったといえる。イベント当日は岡崎市内で別の大型イベントがあったため、参加者数の大幅減少が予想されたが、十分に参加者が集まり、会場は活気にあふれていた。毎年非常に人気の市民講座であるため、来年度も続けていきたいと考えている。



# 11 世界脳週間 2025

## 名古屋市立大学 オープンカレッジ

### 【 開催イベント情報 】

テーマ	脳のふしぎ×こころの健康
日時	2025年10月31日(金)～12月19日(金) (全8回)
会場	名古屋市立大学 (名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1)
主催	名古屋市立大学医学研究科
代表者	野村 洋 (名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経科学研究所 認知機能病態学寄附講座)

### 【 開催趣旨 】

本講座では、脳がどのようにして作られ、「こころ」をどのように生み出すのか、そして認知症や精神疾患、発達障害、慢性痛がどのようなものかを説明し、「こころの健康」について理解を深めることを目指します。

### 【 プログラム 】

- ① 10/31 記憶を思い出す、思い出せない脳のしくみ
- ② 11/7 てんかん・自閉症の分子遺伝学
- ③ 11/14 脳の可塑性とニューロリハビリテーション
- ④ 11/21 うつを予防して健康に生きよう
- ⑤ 11/28 眠っている時の脳の話
- ⑥ 12/5 脳の病気と実臨床 ～ここまで進んだ病態理解と最新治療～
- ⑦ 12/12 脳神経が引き起こす痛み？ 慢性痛の意外な原因とは
- ⑧ 12/19 温度や痛みを感じるしくみ

### 【 開催周知方法 】

近隣への新聞折込チラシ、名古屋市立大学病院、近隣郵便局でのポスター、パンフレット

### 【 参加者数 】

84名 ※延べ人数 529名

( ① 72名、② 68名、③ 68名、④ 60名、⑤ 68名、⑥ 65名、⑦ 64名、⑧ 64名 )

## 【 イベントの概要 】

全8回の講座を通じて、記憶と学習の仕組み、てんかん・自閉症の分子遺伝学、ニューロリハビリテーション、精神疾患、睡眠、神経内科の対象疾患、慢性痛、温度や痛みを感じるしくみなど、多角的な視点から「こころの健康」を解説した。各分野の専門家による講義を通じて、脳の緻密な機能とその障害について理解を深める機会を提供した。

## 【 参加者の反応 】

難解なテーマであっても具体例を用いた解説や、体験型の講義を交えたことで、講師の説明に対して理解度が深まったとの肯定的意見が多く見られた。もっと話を聞きたかったという要望も挙がるなど、熱意ある意見も聞かれた。総じて参加者の満足度は高く、非常に好評だった。

## 【 開催者の総括 】

各回を通じて多くの熱心な方々にご参加いただき、特に講義後の質疑応答が毎回活発に行われたことが印象的だった。脳の構造や機能といった基礎的なテーマから、認知症や精神疾患、発達障害などの身近な健康課題に至るまで、参加者の皆さんの関心の高さが感じられた。今後も市民の皆さんの知的好奇心を満たす場を継続的に提供し、大学の研究成果を社会へ広く還元していきたい。

# 12 世界脳週間 2025 京都講演会

## 【 開催イベント情報 】

日時 2025 年 7 月 19 日(土) 14:00~16:30  
会場 東山高等学校 (京都市左京区永観堂 51)  
主催 京都神経科学グループ  
代表者 河田 光博 (京都府立医科大学 名誉教授/京都岡本記念病院 顧問)

## 【 開催趣旨 】

「脳科学」は高校生にとって受験科目ではないが、知りたいという衝動に駆られ、ヒトやものごとを探求することは、脳を自由に使い新たな発見の喜びにつながる。脳がどのようにはたしているのか、シナプスや神経細胞の電気活動、神経伝達物質といった断片的な言葉だけでなく、脳の活動がどのようになりたっているのか、その基本となる理論や実験を分かりやすく解説し、多様なブレインサイエンスの研究の醍醐味を体感し、教科書では得られない未知の世界を覗くことを目的にした。そのために、世界の第一線で活躍されている大阪大学の岡村康司教授による講演会を企画した。京都の 7 月は暑いですが、祇園祭の時期に開催することで、京都以外からの参加者にも配慮した。

## 【 プログラム 】

講演会 7 月 19 日(土) 14:00~16:30

司会進行 : 東山高校1-2年生

司会者による紹介(会の趣旨説明) : 世話人 河田 光博 名誉教授

講演タイトル : 「脳の電気信号を作り出す分子の仕組み」(60 分)

(最初の 50 分は日本語、残りの 10 分は英語による解説)

講演者 : 岡村 康司 教授 (大阪大学大学院医学系研究科 統合生理学)

質疑応答 : 30 分のち記念撮影

研究室訪問 8 月 1 日(金)

大阪大学医学研究科 統合生理学教室の見学(東山高校1年生 7 名)

岡村教授と教室スタッフによる研究室での実験・研究の解説、

大阪大学大学院医学系研究科附属共同研究実習センターの見学

## 【 開催周知方法 】

ポスター、HP(脳の世紀推進会議)、知人友人のネットワーク



## 【 参加者数 】

37名（東山高校 15名(1-2年生)、京都女子高校 13名(1-2年生)、洛星高校 1名(2年生)、桜蔭中学 1名(3年生)、教員 5名、保護者 1名、講演者 1名

## 【 イベントの概要 】

東山高校生(ヒトの科学ゼミナール「脳ゼミ」の受講生)の司会、進行により、岡村教授の講演が行われた。東山高校以外からの参加者(京都女子高校、洛星高校、桜蔭中学)に対して、高校入り口での誘導案内係、講演後の花束贈呈なども高校生が行った。とくに東京から、桜蔭中学 3年生と保護者も参加した。

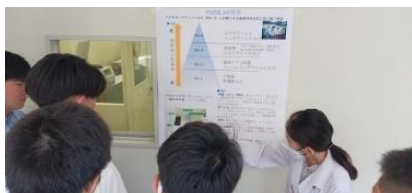
講演は高校生にとって理解しやすい導入、例えば膝蓋腱反射を岡村教授が実際に高校生対象に行い、神経と筋の関係性を具体的に示した後、基本的概念や用語の説明、さらに講演後半は岡村教授の研究室で行われている最新の研究成果について解説された。最後の 10分は、英語で今までの講演内容を解説いただいた。

## 【 参加者の反応 】

岡村教授は講演レジメを用意され、分かりやすいパワーポイントでの解説、とくに神経伝達機構、シナプスでのチャンネル分子について研究成果も披露され、1時間を優に超える講演であったが、食い入るように参加者は聴講していた。講演後、東山高校以外から参加した洛星高校生、京都女子高校生からも多数の質問が出て、講演の素晴らしさを物語っていた。暑い京都の時期、シャツを腕まくりされての岡村教授の真摯なお人柄を、高校生はまさに肌で感じたようであった。

## 【 開催者の総括 】

大阪大学の 2026 年 3 月退職前に、是非とも高校生へのご講演をお願いしたところ、大変ご多忙にもかかわらずお引き受けされ、熱弁をふるっていただいた。脳科学は面白いという実感が若い高校生に伝わったように思えた。講演会後の研究室見学も行っていただき、実際の大学医学部での研究室の雰囲気、研究機器、さらには大阪大学中央研究室なども案内していただき、高校では味わえない研究の醍醐味を体感できたようであった。



# 13 世界脳週間 2025

## 大阪大学 Neuroscience Meets Technology

### 【開催イベント情報】

日時 2025年9月23日(火・祝) 13:00~18:00  
会場 大阪大学 最先端医療イノベーションセンター (吹田市山田丘2-2)  
主催 大阪大学 国際医工情報センター  
代表者 柳澤 琢史 (大阪大学大学院医系科学研究科 神経情報学 教授)

### 【開催趣旨】

神経科学、医工学、再生医療、AI・BMI技術等の先端研究を通じて国際学術交流を推進することを目的に、2025年9月23日に開催した。特に、日本とオランダにおける医工連携教育や研究体制の違いを相互理解し、次世代の研究者育成や将来の共同研究の契機とすることを重視した。オランダの University of Twente(トゥヴェンテ大学)による日本スタディツアー(Kintsugi)の日程に合わせ、Technical Medicine/Biomedical Engineering分野の修士課程学生と教員を大阪大学へ招聘した。

### 【プログラム】

- 産業科学研究所(SANKEN)見学
  - ・AI医療データ解析
  - ・生体発光技術
  - ・抗菌薬耐性研究
  - ・フレキシブル/ストレッチャブル電子デバイス研究紹介
  - ・研究室ツアー
- 工学研究科 応用化学専攻 ラボツアー
  - ・有機工業化学領域における研究紹介
- 医学系研究科 講義セッション
  - ・聴覚・薬物計測技術
  - ・fMRIを用いた脳情報解読
  - ・Insight 研究
  - ・BMI・幻肢痛研究
- Twente大学の学生による研究発表
  - ・Neuromodulation 関連研究紹介
- ポスターセッション/ネットワーキング
  - ・学生・教員間交流
  - ・研究ディスカッション

## 【 開催周知方法 】

ポスター展示

## 【 参加者数 】

39 名

## 【 イベントの概要 】

オランダ・トゥヴェンテ大学の修士課程学生 30 名および教員を迎え、「Neuroscience Meets Technology」をテーマとした国際学術交流イベントを開催した。AI、生体計測、BMI、再生医療、柔軟電子デバイスなど医工融合領域の研究紹介に加え、研究室見学やポスターセッションを実施し、日蘭双方の学生と研究者による活発な意見交換および学術交流を促進した。

## 【 参加者の反応 】

講義内容の質の高さや研究テーマの先進性について、非常に高い評価が得られた。特に、日本における神経科学・再生医療の研究や、医師とエンジニア双方の視点を融合した研究体制に強い関心が寄せられた。また、学生同士の交流や研究ディスカッションも好評であった。一方で当初の想定よりも質疑応答が活発であったため、スケジュール進行に余裕が必要であるとの意見も見られた。

## 【 開催者の総括 】

本イベントは、神経科学と工学技術を横断する研究交流を通じて、国際的な人的ネットワーク形成を強く推進した。特に、オランダの Technical Medicine 教育と日本の医工連携研究との比較を通じ、双方に新たな視点をもたらす機会となった。研究紹介のみならず、学生や若手研究者同士が自由に議論できる環境を構築できた点も有意義であり、今後の共同研究や継続的交流への発展が期待される。



## 14 世界脳週間 2025

### 奈良女子大学附属中等教育学校 SSHサイエンス先端講座Ⅱ

#### 【 開催イベント情報 】

日 時	2026年3月14日(土) 13:30~16:00
会 場	奈良女子大学附属中等教育学校 多目的ホール (奈良市東紀寺町1-60-1)
主 催	奈良女子大学附属中等教育学校
代 表 者	片岡 達郎 (奈良女子大学附属中等教育学校 校長)
後 援	奈良県教育委員会

#### 【 開催趣旨 】

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の研究開発のプログラム「サイエンス先端講座」を、奈良県内の中学生・高校生および保護者・教職員、地域住民の方に公開することにより、科学に対する興味関心を喚起するとともに、SSHの研究開発の成果を地域に還元しています。

附属中等教育学校の年間行事に重ならない時期を選定し、毎年この時期に開催しています。

#### 【 プログラム 】

13:30~14:30 講演会

講演タイトル : 自己と他者の脳内表現

講演者 : 中野 珠実 教授(大阪大学大学院情報科学研究科)

14:45~15:45 講演者との質疑応答

#### 【 開催周知方法 】

本校全生徒に案内を配布し、生徒・保護者から参加希望者を募るとともに、本校のホームページにも掲載し、一般の方にも参加を募りました。

#### 【 参加者数 】

合計 54名 (内訳 : 中高生 36名、保護者・一般 18名)

#### 【 イベントの概要 】

本講演「自己と他者の脳内表現」では、脳科学、認知科学がご専門の中野先生が、これまで研究されてきた内容について、具体例を示しながら中高生にもわかるように丁寧に説明していただきました。自分の顔の認知メカニズムに関する研究の話では、自分の顔(たとえ意識できないほど一瞬の提示であっても)を見ると、脳のドーパミン報酬系が自動的に駆動されることや、自分に似ている顔の人を信頼しやすいという心理現象について紹介がありました。また、写真アプリ等で

「自分の顔」を過度に加工したくなるのは、この報酬系が働くことで「より良く見せたい」という欲求が強まるためであり、他人の顔を見る時とは異なる脳の仕組みが働いているとのことでした。少し専門的な知識を要する部分もありましたが、写真や動画を織り交ぜながらの研究紹介は、私たちが日常生活で抱く疑問を解消してくれる話題ばかりで、参加者もとても面白そうに話を聞いていました。

後半の質疑応答では、生徒や保護者からの質問を中心に1時間にも及ぶ活発な意見交換ができました。講演内容についてだけでなく普段から疑問に思っていることなど様々な質問が出ましたが、中野先生は一つ一つの質問に丁寧に回答され、研究者としての考え方や姿勢も生徒たちに伝えてくださいました。中野先生ご自身が、研究において明らかにしたいことをどのような方法で調査し、どうすれば実証できるかというストーリーを紹介していただき、研究の面白さや難しさを参加者全員で共有できました。

実施後のアンケートにも多数書かれていたように、参加生徒や保護者にとって、その研究分野の第一線でご活躍されている先生のお話を聞き、質疑応答を通して交流できたことは、大変良い刺激になったと思います。このような貴重な機会を与えてくださった皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

奈良女子大学附属中等教育学校  
【世界脳週間2025奈良イベント】  
**2025年度SSHサイエンス先端講座II**

無料  
要事前申し込み  
2026  
3/14(土)  
13:30-16:00  
(開場 13:00)

会場  
奈良女子大学附属中等教育学校  
〒630-8305 奈良県奈良市東院1-1-60-1

お申し込み方法  
※変更申し込みは専用フォームから  
https://forms.gle/Kp4R68nqj1Hh2W5A  
申し込み締切：2月28日(土)

講演タイトル  
「自己と他者の脳内表現」  
中野 珠実 氏  
大阪大学大学院  
情報科学研究科 教授

対象：中学生、高校生、保護者、一般の方  
場所：奈良女子大学附属中等教育学校  
総合教育棟2F 多目的ホール  
(奈良市東院寺町1丁目60-1)  
問い合わせ先：ah15122@cc.nara-wu.ac.jp

主催 奈良女子大学附属中等教育学校（共催）NPO法人 脳の世紀推進会議 【後援】奈良県教育委員会



# 15 世界脳週間 2025

## 広島大学医学部 公開講座

### 【 開催イベント情報 】

テーマ 「先端医療は今 –広島から世界へ 2025」 脳と心の科学はおもしろい！  
日時 2025年7月26日(土) 13:00~16:00  
会場 広島大学医学部 第5講義室 (広島市南区霞 1-2-3)  
主催 広島大学 神経科学研究会  
代表者 岡田 剛 (広島大学大学院医系科学研究科 精神神経医学 教授)  
後援 広島大学医学部

### 【 開催趣旨 】

高校生を対象に、最新の医学研究や医療技術を分かりやすく紹介する広島大学医学部の高大連携公開講座の一環として7月に開催した。

### 【 プログラム 】

13:00~13:05 「はじめに」  
岡田 剛 教授 (広島大学大学院医系科学研究科 精神神経医学)  
13:05~13:45 講演1 「MRI で見る心のサイン : うつ病の脳画像研究」  
上敷領 俊晴 特任助教 (広島大学大学院医系科学研究科 精神神経医学)  
13:55~14:35 講演2 「コンピューターと脳:機能素子の違いを探る」  
藤原 祐一郎 教授 (広島大学大学院医系科学研究科 生理学及び生物物理学)  
14:45~15:25 講演3 「てんかん発作から読み解く脳機能と神経制御」  
飯田 幸治 教授 (広島大学病院 てんかんセンター センター長)  
15:35~15:55 質疑応答  
15:55~16:00 終わりの挨拶 アンケート記入

### 【 開催周知方法 】

ホームページ、県内各高校への案内

### 【 参加者数 】

84名

## 【 イベントの概要 】

医学部を主体として、脳科学の研究および臨床に携わる研究者・医師 3 名から講演をしていただいた。1 人目は精神科医より、うつ病の脳画像研究について、2 人目は基礎医学研究者より、コンピューターと脳の機能素子の違いについて、3 人目はてんかんを専門とする脳神経外科医より、てんかん発作から読み解く脳機能と神経制御について講演していただいた。講演後には、参加者から質問用紙に記載のあった質問を基に質疑応答を行った。

## 【 参加者の反応 】

参加者からは、うつ病が脳の構造や機能の変化と関係すること、MRI や AI を用いて診断や治療に結びつける研究が進んでいることに、驚きや関心が寄せられた。また、コンピューターと脳の共通点・相違点の比較も印象的で、てんかんについては、発作の種類、脳との関係、検査・手術を含む治療法への理解が深まったという反応が多くみられた。

## 【 開催者の総括 】

高校生からは、うつ病と脳画像、コンピューターと脳の比較、てんかん発作と脳機能の関りに強い関心が寄せられ、講演を通して医学・脳科学への理解が深まったことがうかがえた。研究と臨床のつながりに触れることで、将来の進路を考える契機となるとともに、広島大学の教育・研究の魅力を知ってもらう機会にもなった。



## 結び 「世界脳週間 2025 を終えて」

わが国において 2000 年からスタートした「世界脳週間」行事も 25 年目を迎えました。

この間、2020 年 1 月ごろより世界中に蔓延した COVID-19 のコロナ禍により 2020 年度から 2022 年度の行事は大きな影響を受け一部地域では中止或いは延期とせざるを得ませんでした。しかしながら、行事を再開する施設も少しずつ増えてきており、2025 年度は全国 15 ヶ所で多彩なイベントが開催されました。

全ての地区での講演会や研究室訪問、ラボツアー（見学）など現地で開催され、一部ではオンラインの配信も含むハイブリッド形式で開催されました。

各地区における事後アンケート調査では多数の好意的反応がみられます。例えば、「脳科学という学問に日頃あまり触れていない自分にも、わかりやすく内容を理解することができて、とても面白かったです。実際に現場で研究している先生方に、直接質問したり、詳しく教えていただくことができて良かったです。また参加したいと思います。」というコメントなど、この世界脳週間行事の意義を改めて実感できる新鮮な反応が多く、今後、この活動をさらに広く全国展開していくことの重要性を認識することができました。

最後に、ボランティアとして協力していただいた各地の実行委員会のメンバー、講演をしていただいた講師の先生方、種々標本のデモンストレーションやラボツアーを実施していただいた研究者の方々、及び財政的なご支援をいただいた賛助会員の方々、支援団体の皆様に厚く御礼申し上げます、結びの言葉といたします。

主催者 特定非営利活動法人「脳の世紀推進会議」 理事長  
水澤 英洋

事務局 | 168-0074 東京都杉並区上高井戸2-2-7  
株式会社コナ・オフィス 内  
NPO法人 **脳の世紀推進会議**  
TEL : 080-9281-6902  
E-mail : brain.konaoffice@gmail.com  
<https://www.braincentury.org/>

発行日 2026年6月8日